

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、グロドノ州イヴィエフスキー地区視察(8/21)
- マムカ・バフタゼ・ジョージア首相のベラルーシ訪問(8/23)
- ベラルーシの対中農畜産物輸出が大幅増

大統領動静

●グロドノ州イヴィエフスキー地区視察(8/21)

ルカシェンコ大統領は、農作物の収穫状況に関心を示し、ジャガイモ生産につき、公営部門以上に民間部門の農作物収穫が伸びていることに満足を表明。また、菜種、麻、サトウキビ、トウモロコシなどについても収穫見通しは良好との報告を受けた。大統領は、未活用の土地の活用について年内に土地改良に関する結論を出すよう言及。

(8/21 大統領府公式サイト)

●ルマス首相と協議(8/23)

ルカシェンコ大統領の発言は対露関係及び対ウクライナ関係について報告を求めた。また、社会分野で働く人々や低所得者層への支援策の実施状況について質した。

ルマス首相は国内経済状況について、物価上昇率は政府の計画値の範囲内に収まっており、平均賃金も上昇中と報告。今後、公務員の所得と年金支給額をそれぞれ平均賃金の 80%及び 40%とすべきとの大統領の指示を実行する施策を検討する旨述べた。

(8/23 大統領公式ホームページ)

●マムカ・バフタゼ・ジョージア首相と会談(8/23)

ルカシェンコ大統領の発言は以下の通り

・かつて我々が二国間の貿易関係をゼロから始めた際、ロシアと問題を抱えたジョージアと貿易ができるとは思っていなかったが、我々は数年でそれを可能として、今では将来性も見えている。

バフタゼ首相の発言は以下の通り。

・両国間の貿易高は倍増させられると考える。2015年の貴大統領のジョージア初訪問は両国関係の発展に大きな動力を与えた。また、ジョージアの領土一体性と主権を一貫して支持してくださることにに関して、貴大統領とベラルーシ国民に対して感謝申し上げたい。ジョージア国民はこのことを決して忘れない。(これに対してルカシェンコ大統領から、当該方針はいかなる国との関係においてもベラルーシとしての一貫した態度であり、(領土と主権への侵害は)どの国に対しても起こりうることであり、決して許容されないことである旨応答。)

(8/23 大統領府公式ホームページ)

内政

●国際環境派遣団がオストロヴェツ原発周辺地の「原発稼働前の放射線量」の測定を完了

8月15日から20日までの測定調査の期間中、派遣団は原発建設地に隣接する土地の 200 以上の地点や河岸線での放射線量測定を行った。空気、水、地面、沈殿物、植物などのサンプルが採取され、測定が行われた。原発稼働後、同様の測定が実施される予定。

(8/21 国営ベルタ通信)

●国際原子力機関(IAEA)の専門家代表団オストロヴェツ原発の安全性分析を実施

アルメニア、ベルギー、ブラジル、フランス、オランダ、ロシア、スロバキア、米国などの専門家から成る同代表団は、18 日間に亘る安全性分析を終えて勧告を実施。勧告内容には、稼働プログラムの策定や遂行に関わる活動について指導部の明確化を通じて統制と監視を強化することなどが盛り込まれた。

(8/22 ベラパン通信)

外交

●ベラルーシ外務省が香港の状況に関するベラルーシの立場を表明

香港における状況に関して、グラス外務省報道官は22日、国営ベルタ通信の質問に答えて「一つの中国の原則への変わらぬ強い支持を確認するとともに、中華人民共和国の国内事項への外国による干渉に反対し、香港特別行政区の状況の早期の正常化に対する期待を表明する」旨発言。

(8/22 国営ベルタ通信)

●マムカ・バフタゼ・ジョージア首相、アンドレイチェンコ代表者院(下院)議員と会談(8/23)

アンドレイチェンコ議長の発言要旨は以下の通り。

・貿易面で、ミネラル・ウォーター、青果、アルコール飲料などのジョージア製品のベラルーシへの輸入に関心。観光分野では、2010年にジョージアを訪問したベラルーシ人は約5,000人であったのに対し、2018年には6万5,000人に増加。学術分野では120人のジョージア学生がベラルーシの医療機関に留学中。

バフタゼ首相の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシ製品はジョージア国民の間で人気がある。また、新技術開発やイノベーションに関するベラルーシの経験はジョージアにとって重要。

(8/23 国営ベルタ通信)

●ダプキュナス外務次官とメーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使が会談(8/26)

ダプキュナス次官は、ベラルーシにおいてロシアと国連人口基金の支援で実施中の人口問題に関するプロジェクトの継続のためロシアから195万ドルの支出を受けたことに謝意を表明。この他、中小都市における小規模ビジネス支援やベラルーシのWTO加盟支援のための事業、児童の障害予防、反エイズ事業など、ロシアと国連が協力して実施しているプログラムに言及。また、2020年にミンスクで開催予定の第1回「ユーラシア経済連合地域における国連持続可能

な開発目標(SDGs)に関する地域フォーラム」にロシアからの代表者を招待した。

(8/26 国営ベルタ通信)

経済

【国内経済】

●国営銀行の不良資産が本年7月1日時点で27.2億ベラルーシ・ルーブルに。過去12か月間で倍増 ベラルーシの中央銀行である国立銀行の発表。

(8/23 ベラパン通信)

●財務省試算:2020年の国家債務償還のための支出は35億ドル規模

(8/23 国営ベルタ通信)

【対外経済】

●ペルミノヴァ経済次官が広東省を訪問(8/21-23)

同次官は、国際博覧会「21世紀海上シルクロード、広東-2019」関連イベントに出席し、一帯一路におけるベラルーシの将来性についてプレゼンテーションを実施。また、Ouyang Weiming 広東省人民政府副省長と会談し、ベラルーシ-広東省間の物資直輸送鉄道の解説の必要性やベラルーシ・中国産業特区「巨石」への広東省企業の入居数拡大その他について議論した。この他、Wen's Foodstuff Group Co., Ltd.やSinoBy Agriculture等の企業関係者とも会談を実施。

(8/23 ベラパン通信)

●ベラルーシの対中農畜産物輸出が大幅増

ベラルーシ農業・食糧省の発表によると、本年上半期の対中輸出額は前年同期比で肉製品は38倍増で1,230万USD。乳製品は同13%増の1,670万USD。この他、菜種油は同2.5倍増の530万USD。なお、中国への物資輸送は、現在は海上輸送が主流であるが、鉄道輸送も増加傾向。昨年末から8両貨物コンテナによる乳製品が発送されており、ベラルーシ産牛肉及び鶏肉の鉄道輸送による納入も計画されている。

(8/26 国営ベルタ通信)

(了)